

FPT Corporation (IT)

FPTソフトウェアは、ベトナムのICT業界をリードする企業として、自動運転技術の開発に積極的に取り組んでいます。2019年、同社はヤマハ発動機とEcoparkと提携し、AIとLiDAR技術を活用した自動運転電気自動車の開発に着手しました。

ハノイ近郊のEcoparkでは、FPTの自動運転車が4kmのルートを手動の介入なしで走行するデモンストレーションを実施。この車両は、障害物検知、自動駐車、乗客の乗降など高度な機能を100%の精度で披露しました。

さらに、FPTはモバイルアプリを通じた配車システムも開発。ユーザーがアプリで予約すると、車両が最適ルートを計算し、乗客を優先順位付けして運行します。

FPTは2017年に最初の自動運転車を発表し、その後も研究開発を続けています。同社は自動運転レベル3を達成し、数年以内に最高レベルの5と自動車業界の国際安全規格ISO 26262の取得を目指しています。FPTの自動運転技術は、都市部や高級リゾート、工場、倉庫などでの採用が期待されており、ベトナムのスマート公共交通ビジョンの実現に向けた重要な一歩となっています。

経済成長

IT

インフラ



Pacific Group (IT)

Pacific Groupは、空飛ぶクルマの導入に向けて大胆な一歩を踏み出しています。同社は日本のSkyDriveと提携し、最大100機のSkyDrive式SD-05型をプレオーダーしました。この革新的な取り組みは、ベトナムの深刻な交通渋滞問題を解決する可能性を秘めています。

Pacific Groupの開発拠点では、空飛ぶクルマの実用化に向けた準備が着々と進んでいます。パーティポート（垂直離着陸用飛行場）の設計や、給電インフラの整備など、未来の都市交通を支える重要な要素が形作られつつあります。

さらに、同社はベトナム運輸省や民間航空会社、防衛省と密接に連携し、空飛ぶクルマの実現に向けた規制緩和や航空許可の取得に取り組んでいます。この官民一体となった取り組みは、空の革命を間近に感じさせます。

Pacific Groupの開発現場を訪れば、ベトナムの都市風景を背景に、近い将来実現するであろう空飛ぶクルマの姿を想像することができるでしょう。未来の交通革命の最前線を、この目で確かめてみたくなる魅力的な光景が広がっています。

経済成長

IT

環境保護



ESUHAI(人材)

労働力

経済成長

人材

エスハイ (ESUHAI) は、ベトナムと日本の架け橋となる人材企業として、独自の「日越人材還流エコシステム」を構築しています。2006年にベトナムで創業し、2019年には日本法人も設立した同社は、ベトナム人材の研修、派遣、紹介、受け入れサポートなど、幅広い事業を展開しています。

エスハイの特徴は、単なる人材派遣にとどまらず、独自の教育プログラムを通じてベトナム人材の質を高めている点です。例えば、日本の工場や接客業に適應するための「立ち研修」を2008年に考案し、ベトナム人の労働意識改革に貢献しています。

同社のCEOであるレロンソン氏は、自身の留学経験から、技術を学びたいベトナム人が来日しやすい環境を作りたいという思いで事業を始めました。現在、エスハイは単なる出稼ぎではなく、技術や異文化を知るためにベトナム人が日本で働くことを推進しています。

エスハイの事業は、ベトナムの経済発展と密接に関わっています。2022年のベトナムの一人当たりGDPは4,200ドルで、日本の1970年代に相当しますが、スマートフォンやインターネットの普及率は日本と同程度です。この急速な発展を背景に、エスハイは日本企業とベトナム人材の交流を100年先まで続けることを目指しています。



ホーチミン市都市鉄道 (インフラ)

インフラ

経済成長

環境保護

ホーチミン市都市鉄道1号線は、ベトナム初の地下鉄を含む都市鉄道システムで、2024年12月22日に開業しました。総延長19.7kmで、ベンタイン駅からスオイティエンバスターミナル駅まで14駅を結ぶ重要な交通インフラです。路線は地下区間と高架区間で構成され、ベンタイン駅からバソン駅まで約2.5kmの地下区間（3駅）と、残りの約17.2kmの高架区間（11駅）があります。

運営はホーチミン・メトロ1号線有限会社(HURC1)が担当し、所有者はホーチミン市都市鉄道管理局(MAUR)です。日立製作所が車両や信号システムを納入し、JICAの円借款によって建設されました。総投資額は約43兆7570億VND（約2670億円）で、そのうち87%が日本のODAを通じて調達されています。運賃は距離に応じて設定され、現金決済で7,000～20,000VND（約43～122円）、非現金決済で6,000～19,000VND（約37～116円）となっています。

定期券や割引制度も導入され、利用者の利便性を高めています。将来的には、8路線の都市鉄道、1路線の路面電車、2路線のモノレールが計画されており、完成時には総延長107km、176駅に達する野心的な都市交通網の一部となる予定です。この都市鉄道は、ホーチミン市の急速な都市化と経済発展を支える重要な交通インフラとして期待されています。



ダナン工科大学（教育）

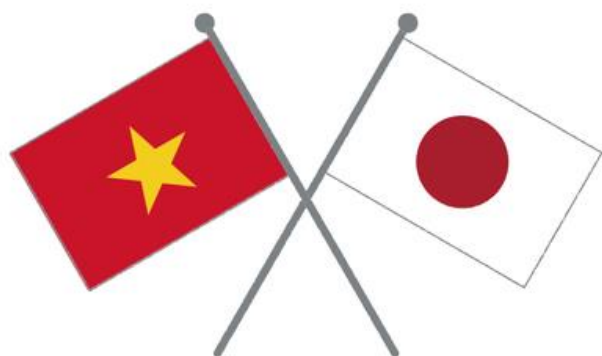
ダナン大学工科大学（DUT）は、ベトナム中部最大の工科大学であり、国内トップクラスの技術系教育機関として知られています。1975年にダナン大学研究所として設立され、1976年にダナン工科大学として認可されました。1994年にはダナン大学システムの一部となり、現在の名称となりました。DUTは、ハノイ工科大学、ホーチミン市工科大学と並び「三大工科」と称される名門校です。ベトナム第3の都市ダナンに位置し、良好なインフラと国際交流環境を活かしながら、地域発展とグローバル人材育成に取り組んでいます。

大学は30以上の専攻を提供しており、電子工学、建設工学、情報工学、環境工学など多岐にわたる分野をカバーしています。学部レベルでは、電子・化学工学、建設工学、工学、環境工学、情報工学などの専攻があります。また、修士課程や博士課程も設けられており、より高度な研究や専門教育を行っています。DUTは積極的な国際交流を推進しており、英語による教育プログラムも充実しています。日本を含む海外の大学や企業との交流も盛んで、留学生の受け入れにも力を入れています。例えば、日本語を学ぶ学生と日本企業・団体との産官学オンライン交流会を実施するなど、教育・留学・就労・起業・観光の促進に取り組んでいます。

IT

人材育成

教育



VIETNAM



ロッテ ホテル ハノイ

Lotte Hotel Hanoi

住所 ; No. 54, Lieu Giai St. Cong Vi Ward. Ba Dinh Dist, Hanoi, Vietnam

高さ252m、65階。ハノイの街並みを一望できる高層ビル内のホテル

1～6階がロッテデパート、8～31階にはオフィス&サービスアパートメント、33～64階がホテル(客室は40～64階)、地下にはロッテマートが入っている複合施設で、外観はアオザイのスリットをイメージした建物です。

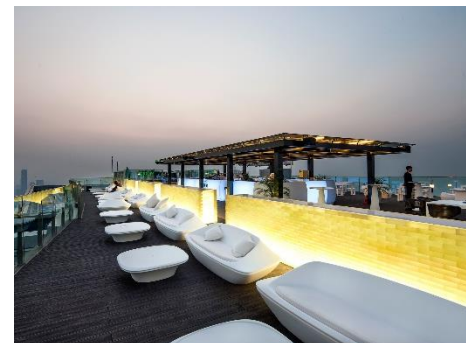
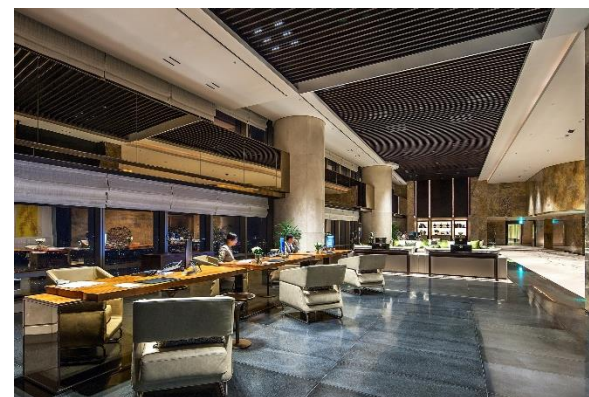
壮大な65階建てのハイライズビル上層部に位置するロッテホテルハノイは、高レベルのサービス品質と様々な設備を完備、一流ホテルの新しい基準を提示します。客室は42㎡の広さからあり、また全室TOTO社のウォッシュレット完備で、ゆったり快適なひと時が過ごせます。

館内レストランには、ベトナムでは初のミシュラン獲得の点心レストラン「Tim Ho Wan」や最上階の65階の展望台は足元がシースルーのスカイウォークがあり必見です。

その更にも上には『TOP OF HANOI』という屋外レストラン&バーがあり、ハノイの夜景を一望できます。

スパもエビアンSPAを取り入れ、宴会場も広く、観光から視察まで幅広い層で利用可能なホテルです。

創業2014年 総客室数 235室と83室のスイートルーム



プルマン ダナン ビーチリゾート Pullman Danang Beach Resort

住所： Truong Sa St., Khue My Ward, Da Nang City, Vietnam

市内中心へのアクセスも良い近い5つ星ビーチリゾートホテル

空港から約10分、市街地へも約10分で行ける利便の良さがこのビーチリゾートホテルの良さです。ビルディングは2棟からあり、向かいにヴィラもあります。

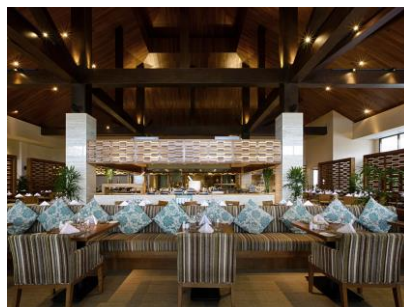
ロビーは正面入り口からプライベートビーチを一望できるように設計されており、海からの風を感じることが出来ます。

2019年に客室の改装を終え、日本人デザイナー監修の落ち着いた日本人には馴染み易い雰囲気となっています。部屋の広さは42㎡からあり、バスタブもあるため日本人に好評です。すべてのお部屋にバルコニーが付いています。客室内はお部屋タイプによって異なりますが、それぞれシックな木製家具とやわらかな色を基調に落ち着いた雰囲気です。

ビーチも広く、団体のビーチパーティーなどのイベントも可能です。

旧 ライフスタイルリゾートダナン

創業2010年 改装年2019年 総客室数 186室



ロッテホテル サイゴン

Lotte Hotel Saigon

住所: 2A-4A Ton Duc Thang Street, Dist.1, Ho Chi Minh, Vietnam

ロッテホテルの東南アジア進出第一号

2013年4月に旧レジェンドホテルから、ロッテホテルズ&リゾートの東南アジア初のホテルになりました。悠々と流れるサイゴン河を臨み、また、徒歩圏内にショッピングで賑やかなドンコイ通り、レタントン通り、ナイトスポットや各国料理のレストランなどがあり、大変便利なロケーションに建っています。

ホーチミン市最大級の屋外プールでのんびりと日光浴を楽しみながら、沢山の花に囲まれてお寛ぎの時間をお約束いたします。

15階建ての建物で室内は37㎡の広めの客室で、シティビューとリバービューに分かれています。館内の設備も、海外向けNHK放送や館内でのインターネット接続無料、温水洗浄便座が完備されています。レストランは日本料理の「吉野」や、アジア料理の「クリスタル・ジェイド・レストラン」などがあります。

創業2001年 改装2014年 総客室数283室



ハノイ市内観光

ベトナム北部、ホー川（紅河/Red River）の南岸にある人口712万人の首都です。7世紀頃からこの地方の中心地となり、11世紀の李朝成立から1802年のフエ遷都までの王都でした。1887年からのフランス領インドシナ時代はその中心地となり、分裂時代を通して首都としての機能を果たしています。

ホーチミンはベトナムの商業の中心地ですが、政治と文化の中心は首都ハノイ。ハノイもホーチミン同様にバイクの数が非常に多く街中にクラクションの音が鳴り響いています。観光ではホアンキエム湖や旧市街を中心に小さなお店が軒を連ねています。また、この町はベトナムの文化・芸術の中心としても知られています。フランス統治時代に有名画家たちが描いたベトナムの風景は、ベトナムアートとして国内外で高い評価を得ています。このようにフランス植民地時代の建物が残っている一方、ベトナム国民の聖地であるホーチミン廟、そしてお寺や教会など様々な文化が混じったまさに異文化と多様性が体験できる街です。



■ 一柱寺

ハノイが昇龍と呼ばれていた李王朝時代に建てられたハスの形をした寺で、周囲の小池にはハスの花が多く咲き誇ります。ハノイの歴史的象徴とされています。



■ 文廟

ハノイにて最初の大学が建てられた箇所です。学問の神様が祭られており、受験シーズン前になるとアオザイを着た学生でいっぱいになります。



■ ホーチミン廟

ベトナム南北統一に生涯をかけた故ホーチミン主席の遺体が今も安置され、一般公開されています。廟は1973～1975年に建設され、ベトナム全土から集められた自然の素材で造られています。



■ タンロン城跡

タンロン（昇龍）とはハノイの旧称。1010年から1804年までほぼ一貫してベトナム諸王朝がここに都を置きましたが、2003年に発掘が始まり、庭園や城門などが見学できます。2010年に世界遺産に登録されました。

世界遺産 ホイアン観光

ホイアンは、16世紀から17世紀にかけて国際貿易港として栄えた歴史的な町で、1999年にユネスコ世界文化遺産に登録されました。その魅力は、古い町並みが現代に至るまで保存されていることにあります。

旧市街の中心には、日本橋（来遠橋）があり、日本とベトナムの友好の証として建設されました。この橋は2万ドン札にも印刷されており、両国の関係の深さを物語っています。タンキーの家やフーンフンの家など、当時の繁栄を物語る建造物が数多く残っています。特に、フーンフンの家は200年の歴史を持ち、日本、ベトナム、中国の建築様式が融合した独特の雰囲気醸し出しています。ホイアン歴史文化博物館や貿易陶磁博物館では、朱印船貿易の遺物や伊万里焼などが展示され、日本との深い関わりを学ぶことができます。

夜になると、街中に灯るランタンの光が幻想的な景色を作り出し、多くの観光客を魅了します。また、アンバンビーチやタンハー陶芸村など、周辺の観光スポットも充実しています。ホイアンは、歴史的な魅力だけでなく、伝統工芸や地元の料理を楽しむこともでき、ベトナムの文化と歴史を深く体験できる魅力的な観光地となっています。



■ホイアンの街並み

歴史保存地区になるため、築200年ほどの伝統的な木造家屋が並んでいます。観光客相手の土産物屋やカフェなども多く、間口が狭く奥行きがとても深く、京都の町屋を思わせる造りの家が並んでいます。



ホーチミン市内観光

ホーチミンシティは1年中暖かい熱帯気候の都市で、南シナ海に面しているロケーションから、フランス統治時代には海洋貿易で発達し、ベトナム統一後にはベトナム第1の商業都市になりました。人口900万人の活気あふれる街で次々と新しい建物がうみだされていますが、フランス時代の影響も色濃く残った独特の文化を持つ都市で「東洋のパリ」とも呼ばれるほどです。ベトナム北部や中部の人々とは少し違い、南国らしい開放的な性格の人々が多く暮らす街です。

■ 統一会堂

1975年4月に内戦が終結するまで大統領官邸として使われていました。館内には大統領の執務室や国賓を迎える応接室など100以上の部屋があり、地下には軍事作戦の司令室があります。現在は外交や式典などに使われる以外は、一般公開されています。

■ サイゴン大教会（聖母マリア教会）

ドンコイ通りの北端、ロータリーの中心に立つカトリック教会。フランス統治下の19世紀後半に建てられ、外壁の赤レンガやステンドグラスなどの資材はすべてフランス製。周辺では毎日のようにウェディングドレスを纏ったベトナム人の新郎新婦が撮影をしている市民生活とは縁の深い観光スポットです。

■ ベンタイン市場

大きな時計台が目印。敷地内には生鮮食料品をはじめ、日用品、貴金属、雑貨、衣類などが何でも揃い、庶民で賑わう巨大マーケットです。値段交渉も負けずにチャレンジ！

■ 中央郵便局

フランス統治時代に建てられたヨーロッパにある駅のような、フランス統治時代を彷彿させる建物。アーチ状の天井の内部はクラシックで広々とした空間を生み出しています。

■ 水上人形劇

千年以上の歴史を持つ伝統芸能で、観光客を魅了する独特の文化体験です。ゴールデン・ドラゴン水上人形劇場では、45分間のショーを通じてベトナムの豊かな歴史と文化を堪能できます。

